



防災・減災の力で、 持続可能な社会を築く

損害保険ジャパン社長

石川 耕治

いしかわ こうじ

世

界は今、自然災害の激甚化、生態系の崩壊、格差の拡大、そして地政学リスクの高まりがもたらす社会の分断など、相互に絡み合う複雑な課題に直面している。国内に目を向けても、人口減少・少子高齢化は深刻さを増し、生活を圧迫するインフレや国際競争力の停滞など、将来への懸念は尽きない。

一方で、こうした厳しい状況にあってもなお、わが国経済は30年に及ぶデフレからの脱却に向けて着実に歩みを進めている。力強い賃上げの流れを背景に、実質賃金も足元連続でプラスに転じており、日本経済は転換点に差しかかりつつある。今こそ、これまでの内向き志向を脱し、未来への投資がさらなる成長を牽引する経済社会へと変革する好機である。

この変革を実現する鍵は、わが国独自の強みを再認識し、それをグローバルな課題解決に資する価値として磨き上げることにある。例えば、損害保険事業を通じて強く感じるのは、日本に根付く「防災・減災」という文化である。わが国は、地震や津波、台風など幾多の災害に見舞われ、木造家屋が密集する都市構造ゆえに大火の経験も重

ねてきた。そのたびに、不撓不屈の精神をもって実践的な知恵を絞り、地域の助け合いや教訓を次代へ伝える教育といった、有形・無形の資産を育んできた。「三方よし」や「おもてなし」の精神が日本独自の価値観として広く認知されているように、「防災・減災」もまた、持続可能な社会を支える普遍的な文化として世界に発信することで、わが国は国際社会において「なくてはならない存在」となり得る。

こうした取り組みの価値を最大化するうえで、AIの活用は欠かせない。AIを単なる効率化の手段にとどめるのではなく、わが国の現場力や経験に裏打ちされた暗黙知を可視化し、新たな価値創造を加速させる「パートナー」として共創を深める。AIの高度な分析力と、現場の実践知を融合させることで、次世代の防災技術や高精度な災害予測など、新たな投資や産業を創出していくことができる。「防災・減災」を起点に、誰もが「安心・安全・健康」を実感できる社会の礎を築きたい。希望ある未来を次世代につなぐため、会員企業の皆さまと共に、わが国の持続的な発展に貢献していく決意である。